

令和元年度吹田市国民健康保険特別会計決算見込みについて

資料 1-2 令和元年度(2019 年度)吹田市国民健康保険特別会計決算額

款ごとに当初予算額、決算額及び増減額、並びに、増減額の大きなものについて、その主な要因をお示ししています。

収支差引額は 141,838,120 円であり、令和 2 年度からの繰上充用はせず、令和 2 年度に繰越しています。

資料 1-3 保険給付費決算額推移

平成 24 年度から令和元年度までの保険給付費決算額、被保険者数、1 人当たりの保険給付費の推移をお示ししています。幅広の棒グラフが保険給付費決算額、折れ線グラフが 1 人当たりの保険給付費です。

保険給付費決算額は減少していますが、被保険者数の減少率のほうがより大きいので、1 人当たりの保険給付費は増加しています。

資料 1-4 令和元年度(2019 年度)吹田市国民健康保険特別会計決算(款別)

歳入歳出それぞれについて、款ごとの決算額及び合計額に占める割合をお示ししています。

資料 1-5 吹田市国民健康保険特別会計赤字解消計画進捗状況

平成 24 年度に運営協議会に諮問し、御了承の答申をいただいた赤字解消計画についての進捗状況をお示ししています。

上段の【表 1】は、赤字解消計画額、下段の【表 2】は、実際の予算決算状況であり、B～E 行の「単年度収支改善額」及び G～L 行の「累積赤字解消額」は、予算編成時の内容を、それ以外は令和元年度の決算までを反映させたものです。

令和元年度決算時点で黒字に転じており、計画より 2 年度早く累積赤字が解消されています。

令和元年度(2019年度)吹田市国民健康保険特別会計決算額

歳 入 (単位: 円)

| ア 款 | イ 当初予算額 ① | ウ 決算額 ② | エ 増減額(②-①) | オ 主な要因 |
|------------|----------------|------------------|---------------|--|
| 1 国民健康保険料 | 7,213,450,000 | 7,295,005,337 | 81,555,337 | 一般医療現年分及び一般後期現年分の収納率が見込みを上回った |
| 2 一部負担金 | 2,000 | 0 | △ 2,000 | |
| 3 使用料及び手数料 | 1,400,000 | 1,610,470 | 210,470 | |
| 4 国庫支出金 | 1,000 | 2,844,000 | 2,843,000 | システム改修に係る補助金の交付を受けた |
| 5 府支出金 | 24,549,302,000 | 24,091,483,548 | △ 457,818,452 | 歳出において、保険給付費及び保健事業費が見込みを下回った (歳出の「2保険給付費」「5保健事業費」と連動) |
| 6 繰入金 | 3,312,866,000 | 3,293,700,213 | △ 19,165,787 | 財政安定化支援事業分の繰入金が見込みを下回った |
| 7 諸収入 | 26,332,000 | 77,739,638 | 51,407,638 | 第三者納付金、返納金等が見込みを上回った |
| 歳入合計 | 35,103,353,000 | A 34,762,383,206 | △ 340,969,794 | |

歳 出

(単位：円)

| ア 款 | イ 当初予算額 ① | ウ 決算額 ② | エ 増減額(②-①) | オ 主な要因 |
|----------------|----------------|------------------|---------------|--|
| 1 総務費 | 509,361,000 | 511,306,665 | 1,945,665 | |
| 2 保険給付費 | 23,853,402,000 | 23,406,002,933 | △ 447,399,067 | ①一般被保険者に係る保険給付費 400,031千円の減 ②退職被保険者等に係る保険給付費 45,075千円の減 |
| 3 国民健康保険事業費納付金 | 9,776,604,000 | 9,776,600,705 | △ 3,295 | |
| 4 共同事業拠出金 | 10,000 | 4,160 | △ 5,840 | |
| 5 保健事業費 | 374,846,000 | 293,718,626 | △ 81,127,374 | 特定健康診査等の受診者数が見込みを下回った |
| 6 公債費 | 70,000 | 1,150 | △ 68,850 | |
| 7 諸支出金 | 574,060,000 | 632,910,847 | 58,850,847 | |
| 償還金及び還付加算金 | 42,060,000 | 30,429,060 | △ 11,630,940 | 一般分保険料還付金が見込みを下回った |
| 繰上充用金 | 532,000,000 | C 602,481,787 | 70,481,787 | 平成30年度の累積赤字額補填のための繰上充用金 |
| 8 予備費 | 15,000,000 | 0 | △ 15,000,000 | 執行が無かった |
| 歳出合計 | 35,103,353,000 | B 34,620,545,086 | △ 482,807,914 | |

収支差引額
(A-B)

141,838,120

単年度収支
(A-B+C)

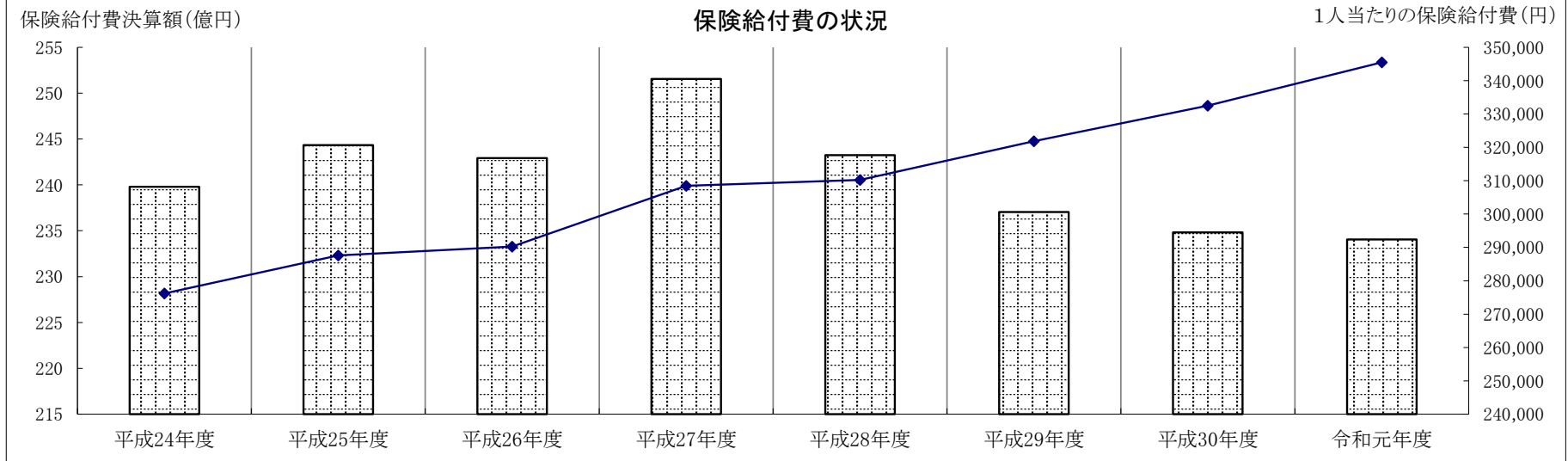
744,319,907

保険給付費決算額推移

資料1-3

※各年度の被保険者数は3月末～翌2月末の平均値

| 年度 | 保険給付費決算額 (円) | | 被保険者数 (人) | | 1人当たりの保険給付費 (円) | |
|----------------|----------------|-------------|-----------|-------------|-----------------|-------------|
| | (A) | 対前年度 伸び率 | (B) | 対前年度 伸び率 | (A/B) | 対前年度 伸び率 |
| 平成24年度(2012年度) | 23,978,245,375 | - | 86,817 | - | 276,193 | - |
| 平成25年度(2013年度) | 24,434,814,133 | 1.9% | 84,964 | -2.1% | 287,590 | 4.1% |
| 平成26年度(2014年度) | 24,291,122,745 | -0.6% | 83,692 | -1.5% | 290,244 | 0.9% |
| 平成27年度(2015年度) | 25,155,470,900 | 3.6% | 81,554 | -2.6% | 308,452 | 6.3% |
| 平成28年度(2016年度) | 24,323,144,960 | -3.3% | 78,398 | -3.9% | 310,252 | 0.6% |
| 平成29年度(2017年度) | 23,704,897,598 | -2.5% | 73,649 | -6.1% | 321,863 | 3.7% |
| 平成30年度(2018年度) | 23,481,557,257 | -0.9% | 70,617 | -4.1% | 332,520 | 3.3% |
| 令和元年度(2019年度) | 23,406,002,933 | -0.3% | 67,746 | -4.1% | 345,496 | 3.9% |

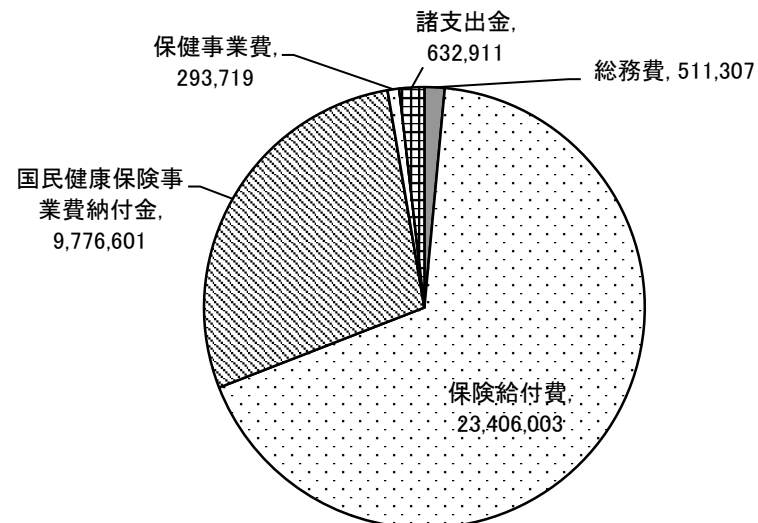
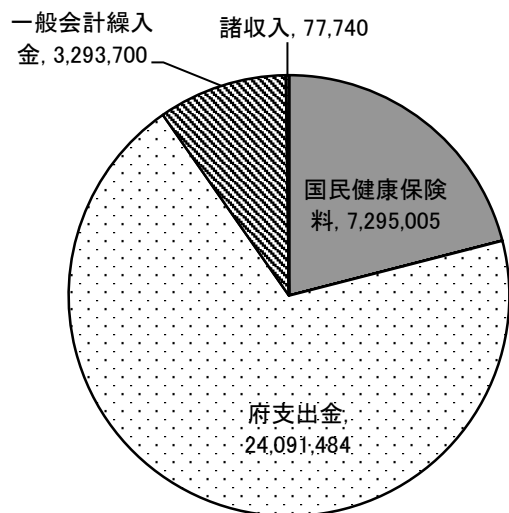


令和元年度(2019年度)吹田市国民健康保険特別会計決算(款別)

資料1-4

(単位:千円)

| 歳 入 | | | 歳 出 | | |
|--------------|------------|--------|------------------|------------|--------|
| 項 目 (款) | 金 額 | 割 合 | 項 目 (款) | 金 額 | 割 合 |
| (1) 国民健康保険料 | 7,295,005 | 21.0% | (1) 総務費 | 511,307 | 1.5% |
| (2) 一部負担金 | 0 | 0.0% | (2) 保険給付費 | 23,406,003 | 67.6% |
| (3) 使用料及び手数料 | 1,610 | 0.0% | (3) 国民健康保険事業費納付金 | 9,776,601 | 28.3% |
| (4) 国庫支出金 | 2,844 | 0.0% | (4) 共同事業拠出金 | 4 | 0.0% |
| (5) 府支出金 | 24,091,484 | 69.3% | (5) 保健事業費 | 293,719 | 0.8% |
| (6) 一般会計繰入金 | 3,293,700 | 9.5% | (6) 公債費 | 1 | 0.0% |
| (7) 諸収入 | 77,740 | 0.2% | (7) 諸支出金 | 632,911 | 1.8% |
| | | | (8) 予備費 | 0 | 0.0% |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 合 計 | 34,762,383 | 100.0% | 合 計 | 34,620,545 | 100.0% |



吹田市国民健康保険特別会計赤字解消計画進捗状況

資料1-5

令和2年(2020年)10月

【表1】赤字解消計画額

(単位:百万円)

| 年 度 | | H23 (2011) | H24 (2012) | H25 (2013) | H26 (2014) | H27 (2015) | H28 (2016) | H29 (2017) | H30 (2018) | R01 (2019) | R02 (2020) | R03 (2021) |
|-----|-----------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| A | 当初累積赤字 | ▲ 4,427 | ▲ 3,761 | ▲ 3,970 | ▲ 3,858 | ▲ 3,591 | ▲ 3,184 | ▲ 2,652 | ▲ 2,120 | ▲ 1,588 | ▲ 1,056 | ▲ 524 |
| B | 単年度収支改善額 H24~H28計画 | ①保険料での対応 | 345 | 345 | 345 | 345 | 345 | | | | | |
| C | | ②収納率向上(現年) | 70 | 70 | 70 | 70 | 70 | | | | | |
| D | | ③一般会計繰入 | | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | | | | |
| E | | 合計 | | 465 | 465 | 465 | 465 | 465 | | | | |
| F | 単年度収支 | 286 | ▲ 589 | ▲ 420 | ▲ 265 | ▲ 125 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| G | 累積赤字解消額 H24~R3計画 | ①保険料での対応 | 67 | 67 | | | | | | | | |
| H | | ②収納率向上(滞繰) | 47 | 47 | 116 | 116 | 116 | 116 | 150 | 150 | 150 | 150 |
| I | | ③一般会計繰入 | 266 | 266 | 316 | 316 | 316 | 316 | 316 | 316 | 316 | 308 |
| J | | ④過年度補助金精算額等 | | | 100 | 100 | 100 | 100 | | | | |
| K | | ⑤保険者努力支援交付金 | | | | | | | 66 | 66 | 66 | 66 |
| L | 合計 | 380 | 380 | 532 | 532 | 532 | 532 | 532 | 532 | 532 | 532 | 524 |
| M | 実質単年度収支 F+L | 666 | ▲ 209 | 112 | 267 | 407 | 532 | 532 | 532 | 532 | 532 | 524 |
| N | 累積赤字残額 ア A+M | ▲ 3,761 | ▲ 3,970 | ▲ 3,858 | ▲ 3,591 | ▲ 3,184 | ▲ 2,652 | ▲ 2,120 | ▲ 1,588 | ▲ 1,056 | ▲ 524 | 0 |

【表2】表1に令和元年度決算まで反映

| 年 度 | | H23 (2011) | H24 (2012) | H25 (2013) | H26 (2014) | H27 (2015) | H28 (2016) | H29 (2017) | H30 (2018) | R01 (2019) | R02 (2020) | R03 (2021) |
|-----|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| A | 当初累積赤字 | ▲ 4,427 | ▲ 3,761 | ▲ 3,516 | ▲ 3,355 | ▲ 2,866 | ▲ 2,733 | ▲ 2,362 | ▲ 1,218 | ▲ 603 | 142 | 213 |
| B | 単年度収支改善額 | ①保険料での対応 | 345 | 241 | 193 | | | | | | | |
| C | | ②収納率向上(現年) | 70 | 70 | 70 | 66 | | | | | | |
| D | | ③一般会計繰入 | | 50 | | | | | | | | |
| E | | 合計 | | 465 | 311 | 263 | 66 | | | | | |
| F | 単年度収支 | 286 | ▲ 135 | ▲ 371 | ▲ 43 | ▲ 399 | ▲ 161 | 612 | 83 | 213 | 0 | 0 |
| G | 累積赤字解消額 | ①保険料での対応 | 67 | 67 | | | | | | | | |
| H | | ②収納率向上(滞繰) | 47 | 47 | 116 | 116 | 116 | 116 | 150 | 150 | 71 | |
| I | | ③一般会計繰入 | 266 | 266 | 316 | 316 | 316 | 316 | 316 | 316 | 316 | |
| J | | ④過年度補助金精算額等 | | | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | | | |
| K | | ⑤保険者努力支援交付金 | | | | | | | | 66 | 66 | |
| L | 合計 | 380 | 380 | 532 | 532 | 532 | 532 | 532 | 532 | 532 | 71 | 0 |
| M | 実質単年度収支 F+L | 666 | 245 | 161 | 489 | 133 | 371 | 1,144 | 615 | 745 | 71 | 0 |
| N | 累積赤字残額 イ A+M | ▲ 3,761 | ▲ 3,516 | ▲ 3,355 | ▲ 2,866 | ▲ 2,733 | ▲ 2,362 | ▲ 1,218 | ▲ 603 | 142 | 213 | 213 |

0 表1と表2の累積赤字残額の差 イ - ア 0 454 503 725 451 290 902 985 1,198 737 213

吹田市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、国民健康保険被保険者へ傷病手当金を支給できるよう、吹田市国民健康保険条例の改正を行いました。

本来、条例改正については吹田市国民健康保険運営協議会を開催し、諮問させていただく案件でございますが、傷病手当金の支給について早急に対応し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を図る必要があったため事後報告となったものでございます。

1 概要

令和 2 年 3 月 1 0 日付、厚生労働省保険局国民健康保険課及び高齢者医療課発の事務連絡において、新型コロナウイルス感染症に感染したものに対して傷病手当金を支給することを検討するよう要請がありました。

この要請を受け検討した結果、仕事を休みやすい環境を整備し、感染拡大の防止を図るため、吹田市国民健康保険条例の改正を行い、給与等の平均額の 3 分の 2 の額を傷病手当金として支給するものです。

2 対象者（附則第 2 項）

国民健康保険加入被保険者のうち、次の項目に該当する場合に傷病手当金を支給します。

- (1)吹田市国民健康保険の被保険者
- (2)勤務先から給与等の支払いを受けている者
- (3)新型コロナウイルス感染症に感染した場合又は発熱等の症状があり感染が疑われる場合に療養のため就労することができず、その期間が連続した 3 日間を含み 4 日以上の方
- (4)その就労できなかった期間について給与等の全額又は一部が支給されない者

3 支給期間（附則第 3 項）

労務に服することができなくなった日から起算して 3 日を経過した日から就労することができない期間。

ただし、給与収入の全部又は一部を受けることができる者に対しては、これを受けることができる期間は、傷病手当金を支給しません。

なお、その受けることができる給与収入の額が、規定により算定される傷病手当金の額より少ないときは、その差額を支給します。

4 支給額（附則第4項）

直近の継続した3月間の給与収入の合計額を就労日数で除した金額×2/3×日数

5 適用期間（附則第2項）

令和2年1月1日から規則で定める日までの間で療養のため就労することができない期間（ただし、入院が継続する場合等は健康保険と同様、最長1年6月まで）

6 令和2年度4月補正予算

今回補正額 2,949千円

(1)歳出

国民健康保険特別会計

(款) 保険給付費 (項) 傷病手当金諸費 (目) 傷病手当金

(大事業) 国民健康保険事業 (小事業) 傷病手当金支払事業

(節) 負担金、補助及び交付金 (細節) 負担金 (細々節) その他負担金

(2)歳入

国民健康保険特別会計

(款) 府支出金 (項) 府補助金 (目) 保険給付費等交付金

(節) 特別交付金

7 補助率

10/10

8 事業開始時期

令和2年5月

吹田市国民健康保険条例現行・改正案対照表

_____は改正箇所

| 現 行 | 改 正 案 |
|---|---|
| <p>附 則</p> <p>1 -----略----- <u>(規約の廃止)</u></p> <p>2 <u>吹田市国民健康保険の特例に関する規約（昭和35年吹田市条例第357号。以下「旧規約」という。）は、この条例の施行の日に廃止する。</u></p> <p><u>(国民健康保険運営協議会委員の経過措置)</u></p> <p>3 <u>この条例施行の際、現に旧規約第3条の運営協議会委員の職にあつた者は、この条例第2条により委嘱された運営協議会委員とみなし、任期は、旧規約により選任された日から起算する。</u></p> <p><u>(未支給の保険給付の経過措置)</u></p> <p>4 <u>この条例施行前に行なうべきであつた保険給付で、この条例の施行の際まだ行なっていないものについては、なお、従前の例による。</u></p> | <p>附 則</p> <p>1 -----略----- <u>(新型コロナウイルス感染症に係る傷病手当金)</u></p> <p>2 <u>給与等（所得税法第28条第1項に規定する給与等をいい、3月を超える期間ごとに受けるものを除く。以下同じ。）を受ける被保険者が新型インフルエンザ等対策特別措置法（平成24年法律第31号）附則第1条の2第1項に規定する新型コロナウイルス感染症による療養（当該感染が疑われる疾病による療養を含み、令和元年12月29日から規則で定める日までの間に開始したものに限る。以下「療養」という。）のため就労することができないときは、当該被保険者の属する世帯の世帯主に対し、傷病手当金を支給する。</u></p> <p>3 <u>傷病手当金の支給の対象となる日は、療養のため就労することができなくなった日から起算して3日を経過した日（以下「手当金開始日」という。）以後手当金開始日から1年6月を経過する日までの間において療養のため就労することができなかった期間のうち就労することを予定していた日とする。</u></p> <p>4 <u>傷病手当金の額は、その支給の対象となる日1日につき、手当金開始日の2月前の日の属する月の初日から療養のため就労することができなくなった日の前日までの間の給与等の額の合計額を就労日数で除して得た額（その額が健康保険法に規定する標準報酬月額等級の最高等級の標準報酬月額の30分の1に相当する額を超えるときは、当該30分の1に相当する額）（それらの額に5円未満の端数があるときはこれを切り捨て、5円以上10円未満の端数があるときはこれを10円に切り上げた額）の3分の2に相当する額（その額に50銭未満の端数があるときはこれを切り捨て、50銭以上1円未満の端数があるときはこれを1円に切り上げた額）</u></p> |

| 現 行 | 改 正 案 |
|---|---|
| <p>5 削除</p> <p>6 削除</p> <p><u>(昭和35年度における保険料の特例)</u></p> <p>7 <u>昭和35年度について第9条の規定を適用する場合は、同条中「100分の90」とあるのは「100分の85」と読み替える。</u></p> <p>8 <u>この条例の施行により、あらたに国民健康保険が実施される区域内にこの条例の施行の際、現に住所を有するため、第8条の保険料の納付義務者となる者に対して課する昭和35年度の保険料の賦課額については、第10条第1項ただし書きの規定にかかわらず、15,000円を限度とする。</u></p> <p>9 <u>この条例の施行により、あらたに国民健康保険が実施される区域内にこの条例の施行の際、現に住所を有するため、第8条の保険料の納付義務者となる者に対して適用する昭和35年度の保険料率については、第12条の規定にかかわらず、第12条の保険料率の2分の1に相当する数、又は額とする。</u></p> <p>10 <u>この条例の施行により、あらたに国民健康保険が実施される区域内にこの条例の施行の際、現に住所を有するため、第8条の保険料の納付義務者となる者に対する昭和35年度の保険料の賦課期日については、第13条の規定にかかわらず10月1日とする。</u></p> <p>11 <u>昭和35年度において第22条第1項を適用する場合、同条同項の規定にかかわらず、第9条、第10条、第11条及び第12条の規定に基づいて算定した額とする。ただし、所得割額の算定については、第11条中「当該年度分」とあるのは「前年度分」と読み替える。</u></p> <p><u>(保険料の経過措置)</u></p> <p>12 <u>この条例の施行前にかかる保険料の賦課又は徴収については、なお、従前の例による。</u></p> | <p><u>とする。ただし、療養のため就労することができなかつた日について給与等の全部又は一部を受けることができるときは、これを控除した額とする。</u></p> |